

しげ みつ

佐々木 茂 光

**県政
報告**

あの日を忘れない…
地域再生へ
全力で走る

ごあいさつ

爽秋の候 皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

東日本大震災から、早いもので7年7ヶ月が経過致しました。震災以降、全国各地においても大型台風や地震による甚大な被害が多発しています。改めて犠牲になられた方々に対し心からお悔やみ申し上げますと共に、被災をされた皆様に対しお見舞い申し上げます。

同時に自然災害に対する意識をさらに高めていかなければならないと思っております。

復興においては、県立高田病院の開院、松原地区の復興祈念公園の着工、高田商店街のまちびらき、そして三陸道の延伸と、目に映る形は着実に進んでおります。

岩手県の調査によると、復興の進捗率は事業全体では80～90%。一方で、実感度は30～40%と、ここに大きな開きが示されている現状があります。

復興の実感を高めていかなければ本来の復興とは言えません。

復興完遂に向けさらに取組んで参りますので、皆様方のご指導、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



9月定例会決算特別委員会総括質疑



県土整備委員会 委員長

県議会の所属委員会等

- 県土整備委員会（委員長）
- 東日本大震災津波復興特別委員会
- 防災・減災対策調査特別委員会
- 水産振興議員連盟
- 岩手・宮城県境議員連盟



佐々木茂光 熱き思いを胸に 定例会一般質問に立つ！

復興・創生に 全力で走る！！



！ 東日本大震災津波からの復興について

問 復興途上の被災者に対し知事はどのようなメッセージを届けるのか。

答 コミュニティ形成を支援し、心と体のケアに取り組み、「いわて水産アカデミー（仮称）」の設立準備を進めるとともに、起業や新事業展開促進の支援を行う。あわせて震災を伝承する施設の設備を進める。

問 高田松原津波復興祈念公園で、何を世界に発信しようとしているのか。

答 先人の培ってきた津波防災文化、実情と教訓を伝承し、新たな姿を具現化するとともに、復興のありようを国内外に明確に示す。管理活用は市の考えを尊重し調整に努める。

！ 第1次産業の振興について

問 農林水産業を安定的に守るため、どのように進めて行こうとしているのか。

答 国のコメ政策に対応した水田等での高収入野菜の作付拡大、オリンピック関連施設への県産材の需要拡大、「いわて水産アカデミー」の開校準備等に、取り組んでいく。

問 コメ政策見直し後の水田農業の振興についてはどうか。

答 県協議会が示した生産目安を基に具体的な生産計画を策定しており、高収益作物の生産拡大を促進し、農業者の所得向上に取り組んでいく。

！ 医療や在宅看護に従事する医療人材の充足状況について

問 沿岸部における看護師、介護職員の確保はどう進めているか。

答 看護職員については沿岸地域の新規就業者確保対策に優先的に取り組んできた。介護職員については4人の介護人材キャリア支援員を配置している。今後も支援に取り組み、医療人材確保と偏在の解消を進めて行く。

問 沿岸部での医師の定着促進について、現状の認識と今後の見通しは。

答 公立病院等への即戦力医師の招聘では44名の医師を確保した。奨学金養成医師は30年度には5名の配置を予定している。31年度以降に臨床研修を開始する養成医師は義務年限中に2年間、沿岸・県北地域の基幹病院等での勤務を必須とした。

問 リハビリテーション機能を備えた施設を設置してはどうか。

答 医療機関が地域で不足する病床機能への転換に取り組む場合に、地域医療介護総合確保基金を活用した財政支援を行う。

！ 地域包括ケアシステムの推進の課題をどのように認識し、支援していくのか

問 市の行う取り組みを支援するとともに、新たに専門職向けの研修機会を設け、人材の養成と資質の向上を図れるよう市を支援していく。

！ 国民健康保険料について

問 激変緩和措置の具体的内容と財政的措置はどのようなになっているか。

答 期間の延長の有無については、3年ごとの国民健康保険運営方針の見直しの中で検討していく。財源としては国の特例調整交付金が役3億9千万円交付される。

！ 内陸と沿岸との道路ネットワークについて

問 気仙地区と内陸部を結ぶ更なる整備が必要と考えるが。

答 来年度には三陸沿岸道路釜石以南の区間が開通予定し、復興道路等の2020年度までの完成に力を注ぐ。

問 県道釜石住田線は補修の繰り返しでなく抜本的整備が必要と考えるが。

答 必要な防災対策を順次実施し、除雪を含め、適切な管理と安全性や信頼性の確保に努め、未改良区間は、道路需要の変化を見極めつつ検討していく。

！ ILC誘致に向けた県の動きについて

問 県の取り組みは

答 東北ILC準備室と連携し、情報発信、受け入れ環境の整備、加速器関連産業の振興などの取組を進めている。

問 ルート上の笹ノ田トンネルの整備は

答 安定的な事業予算の確保が課題となり、事業効果や投資の効率性の確認と周辺自治体等による支援が不可欠。

！ JR大船渡線の鉄道での復旧について

答 沿線自治体がBRTによる本格復旧について、JR東日本と合意し、利便性の向上に努めている。鉄道による復旧は難しい。

議会

2月 定例会



県土整備他 委員会 調査

7月 高田松原



5月 宮古市
シートピアなあと



5月 岩泉土木センター



7月 気仙沼大島大橋



5月 高森高原風力発電所



1月 熊本市内白川



12月 山田宮古道路開通



2月 2月定例会一般質問



再生可能エネルギー関連質疑



2月 2月定例会一般質問登壇



12月 本会議（県土整備委員長）



5月 押角トンネル



5月 宮古港フェリーターミナル



1月 福岡朝倉市



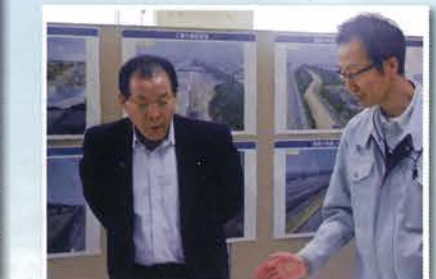
1月 福岡朝倉市



5月 高森高原風力発電所竣工式



12月 沼津 陸視視察調査



12月 浜松土木事務所



1月 熊本県八代港

地方創生時局講演会

6月
石破氏講演会



9月
県政報告会
住田



7月 県政報告会 陸前高田



6月 県政報告会 広田



国道340号線 道路改良



国道340号線 山谷付近
河川改修



7月 三陸沿岸道路



7月 三陸沿岸道高田長部IC開通式

「県庁への道すがら」 徒然なるままに

木々の葉のうつろいを感じつつ、道すがらいつも変わらずに思っていることがある。いかに内陸との格差を縮めていくかである。医療、教育、そして、なりわいを支える交通網の充実である。

気仙地区は従前の格差が震災によりさらに広がり、課題は山積みされた状態にある。インフラ等震災前の姿に戻すことに力を注ぎ7年経過している。東日本大震災の復興事業の進捗率は80～90%と言われ、その事業費には約4兆8千億円が投じられている。しかし復興の実感から言えば、いまだ30～40%の現実感である。「巨額な投資と生活の実態との開き」を素朴に感じている方は沢山おられると思う。私は、この事を大きな課題ととらえ、活動のベースにして日々精進している。

そんな中、釜石自動車道も延伸し、終点の釜石も見えてきた。これが完成すると内陸から住田町へのアクセスが近くなる。今回その滝観洞インターチェンジまでの県道167号釜石住田線における未改良部分の調査費をつけていただくことができた。担当各所には、「又その話ですか」と、渋い顔をされながらも道路整備充実のお願いをして7年、ようやくの感はぬぐえない。しかしこの改良は、森林林業日本一を目指した住田町にとっての振興発展の為には、とても重要な路線であり改良工事への早期着手へ向け、より力を入れなければならない。

住田～高田間の国道340号改良工事も完成に向け急ピッチで工事が進められている。

陸前高田も三陸沿岸道路の延伸により間もなく仙台まで約1時間30分で走ることができる。これを受けて大きく前進するときである。アバッセを中心とした商店街、復興追悼公園工事、広田半島の野外活動センター等々、国・県・市によって進められている各施設の早期実現を推進していかなければならない。

しかし、そんな中でも前述のとおり「巨額な投資と生活の実態との開き」があると考える。

岩手県では次期総合計画の策定、これからの10年の計画が始まり、その柱となる理念に「幸福」を掲げた。一般的に幸福に対しては、人それぞれに考え方、捉え方があるとは思いますが、我々復興途上にいる人間にとっては、もう少し先のテーマでないかと思ってしまう。先と捉えるのは年代による考え方も大きいだろうが、生活の実態から言えば「被災地は、これから何で飯を食っていくか」が、問題である。2年前に県は「復興完遂」と発している。私は、「我々は復興途上にいる」と事あるごとに発言してきた。復興途上が現実であり、完遂などと、とてもそんな気持ちになれないのが今の私である。

少子高齢化の進むなか、高田・住田のこれからの経済をどう立て直し、創生するかが、今まさに本気で取り組まなければならないことである。

あるのは『海・山・川』だ。これだけは何処にも行かない。県庁への道すがら、錦秋の気仙川を眺め、川上、川下は繋がっている…。そんな思いを巡らし、アクセルを踏んでいる。

皆

さんの声をお聞かせ下さい

・ 県政に関するご意見・ご相談をお寄せ下さい。

・ 今回発行の「県政報告」や私の活動への御意見もお待ちしております。

佐々木茂光事務所

■ 発 行 者 岩手県議会議員 佐々木茂光

■ 発 行 所 佐々木茂光事務所

■ 発行責任者 佐々木茂光

〒029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字館56-1

TEL 0192-53-1771

FAX 0192-53-1770

メール shigemitsu@sasa-shige.net